

# 未来づくり懇談会（成田）会議録

日 時：平成29年9月28日（木）  
18：30～19：40

場 所：成田自治公民館

出席者：市長、教育長、総合政策部長、  
経済建設部長

1 開 会 18：30 進行：秘書広報課長

2 あいさつ 矢板市長

3 出席者紹介

4 矢板市設定テーマ

- 持続可能な矢板東部地区のまちづくりについて
- ・資料に基づき、人口・高齢化率推移等を説明

5 意見交換

Q1 国道4号の4車線化に伴う、国道461号の接続、対応、進捗状況について、  
現在どのようになっているのか。

A1 国道4号の矢板ICから土屋交差点までは、4車線化することで平成27年事業化、着手し、今現在詳細な設計をしている。

矢板・那珂川線は県道であることから、年に1度、市から土木事務所へ年度当初に情報共有の場があることから、渋滞解消のため、かさね橋から中交差点に山の中を通過のバイパスの整備の要望を以前からしている。

また、県議会の県土整備委員会にも各自治体5か所要望できるのだが、その要望の中でも最重要の要望として、かさね橋から中交差点のバイパス化を要望している状況。

国・県とも市の方で調整はしているが、具体的にこう決まったというのは県の方からも見させもらっていないが、中、中北交差点の渋滞は大変なものだという認識は県でしているので、何らかの対応はして頂けると思っている。

平成29年5月	土木行政連絡会議にて要望
平成29年7月	県土整備委員会にて要望

Q2 最近、成田地区でハクビシンによる農作物の被害が相当出ている。ハクビシンの駆除は市の方に申請すれば許可は出るのか。鳥獣保護法の対象獣になっているとのことだが、被害がある場合は市に頼めば許可を出してくれると聞いたが、矢板市としてはどうなのか。

A 2 ハクビシンは、成田だけではなく安沢でも被害が増えている。シカ、イノシシについては昨年10月から捕獲報奨金を出すようにした。ハクビシンの被害は市全体から見ると少ないが、市東部地域で被害が報告されているので、持ち帰らせていただく。

被害のあった方に、ハクビシン用の箱罠を貸し出している。現状では個別対応でお願いする。

Q 3 自分たちが高齢者になった時に、受け入れてくれる家庭ばかりではないので、自分たちが落ち着く場所が確保してもらえるのかどうか、最近心配になってきた。

A 3 高齢者の支援施設の整備は、昨年度から準備を進め、やしお苑の定員を30人増やした。市で補助金を出し5月くらいには増床分を確保できるとのこと。

片岡地区には、桜が丘ニュータウンに地域密着型特別養護老人ホームを、定員29人で、来年度、新規オープンする予定。こちらも市で補助金を出し、民間の社会福祉法人が整備している。

老人ホームの数を増やすだけでなく、皆様方には単に長生きではなく健康長寿で、高齢者支援サービスを使わず、保険料は納めて頂きながら、保険料はあまり使わないというような地域社会づくりを進めなければならないと思っている。

健康寿命延伸の取組みを併せて本格的に取り組んでいきたい。

平成30年4月	たかくらの里 (29床)	新規開所
平成30年度中	やしお苑	30床の増床

Q 4 地区別人口推移について、どこの自治体でも右肩下がり。子育て世代の定着を考えていくのが一番大切では。末広町の「平らな広い土地」があるのだが、目的変更は難しいのか。

A 4 J T跡地のことだと思うが、この土地については栃木県サッカー協会のとちぎフットボールセンターの計画に応じる形になった。当初県内1か所のはずであったが小山市と県内二か所になってしまった経過がある。県サッカー協会の補助金の算定ミスなどがあり、市の支出が当初見込額より増加する事情もあった。

NPO法人たかはら那須スポーツクラブから、規模をグラウンド3面から2面にし、クラブハウスを縮小したうえであれば、矢板市からの補助金等は1億円ほどで済むので、設置運営したいとの提案を今年6月に受けた。現在はその計画が実現可能なのか、シンクタンクを交え検討しているところ。

平成28年9月	民間活力導入可能性調査業務を委託
平成29年6月	民間活力導入可能性調査の結果を議会全員協議会で報告。
平成29年7月	NPO法人たかはら那須スポーツクラブから民設民営での実施提案書提出。
平成29年10月	事業計画検証業務を委託 検証結果、実現可能性ありと報告。
平成29年12月	12月定例会でNPO法人たかはら那須スポーツクラブに施設整備及び運営を委ねる旨を表明。

Q 5 市の人口推移が将来的に減っていくという形ではあるが、市として人口を少しでも減らさない施策はあるのか。例えば、成田でも結婚適齢期を迎えている人がいるが、結婚しないので、機会を作るなど。

A 5 平成28年1月、地方創生のために矢板市版総合戦略というものを策定した。総合戦略の中の柱として、住んでもらう、来てもらう、人の流れを作るという目標がある。人口ビジョンというものを作り、2万1千人を何とか2万5千人にまで減少を止めようという計画を作っている。戦略は2つあり、一人でも多くの人口減少の歯止めをかけ、あわよくば人口を増やしていこうという克服戦略と、人口は減っていくのは仕方がないから、人口が減ったなりの社会に適応した戦略を講じていこうという適応戦略がある。

その中の1つの施策としては、平成23年の10月から始まっている「暮らしのびのび定住促進補助金」がある。矢板市に戸建て住宅を取得して、住んでいた方には50万円、最高70万円の補助を出すという制度がある。これまでに年間100件くらい、6年間続いている。これによって転入、転居どちらでもいいのだが、何百人という方が矢板市を出なかった、もしくは市外から入ってきた、こういった一定の効果があつたと考えている。

その他にもいくつか施策はあるが、ひとつひとつ確実に実行し、人口の減少に歯止めをかけることを行っていきたい。

婚活支援については、7月に正式に決まったのだが、国の補助金を使い矢板市として、大規模な婚活イベントをやろうと思っている。今まではやいた未来クラブというボランティアがやってきた取り組みはあつたが、子ども課で200万円ほどの規模で行う。

◆「暮らし」のびのび定住促進補助金

平成23年度～平成29年度

利用件数 546件 1843人 交付金額 281,800千円 転入世帯 30.4%

平成29年度実績

利用件数 91件 296人 交付金額 48,500千円 転入世帯 40.7%

平成30年4月より補助金額を拡充

用地購入 20万円(10万円増)

市内業者を元請とする新築 10万円(5万円増)

特定地域加算(矢板駅西地区) 20万円(新設)

新築住宅に太陽光発電設備を設置 最大10万円(新設)

◆婚活支援

平成29年11月 地域少子化対策重点推進事業交付金を受けて事業実施  
矢板市未来づくりプロジェクト

「やいた de ハッピーチェーン」5回実施 延べ156人

平成30年5月 矢板市婚活イベント企画運營業務委託を実施

Q 6 二学期制になっずいぶん経つかと思うが、それについての保護者アンケートを取るなどしないのか。

A 6 二学期制を取り入れた理由は、時間をかけて子どもたちを評価するため。二学期制は通知表を二回しか出ない。それに対して三学期制は三回出る。保護者の皆さんは三回もらった方がいいという親御さんもいれば、じっくり見てもらって、二回でもいいという人もいる。運動会や修学旅行などの行事を全部動かしているの、元に戻すとすると全部の中身を変えなくてはならない。今のところ塩谷地区の二市二町は二学期制で行くということでまとまっている。保護者の皆さんの要望で「どうしても三学期制」ということであれば考えるか、両方ともいいところはあるところがあるので、戻すのには慎重な姿勢でいるところだ。

Q 7 市道成田5号線。ハッピーハイランドからの雨水が道路を乗り越えて、畑が川になってしまい、土が流れて作付けできないと言われている。

A 7 現地を確認させてもらう。

平成30年度	調査業務の実施。
--------	----------

Q 8 ハッピーハイランドの方から通学するのにホテルの脇を通ってくる。通学路を確保してもらって、車が通っても危なくないような通りにしてほしい。ハッピーの人も豊田小に行くのは遠くて通学路が危険という声もある。引っ越そうかという人も中にはいる。通学路の整備だけでもしてくれれば、見方も変わるというのでお願いします。

A 8 「あれもこれも」というわけにはいかない。行政区の話し合いで、どこを優先するかを少し整理してほしい。

Q 9 防災無線が聞こえない。

A 9 防災無線は聞こえないという一方、うるさいとの話がある。音声電話サービスやメール配信サービスを活用してほしい。年明けに、くらし安全環境課で聞こえにくさ調査を全域で調査する。

平成29年5月	防災行政無線放送確認電話番号のチラシを全戸配布
平成29年6月	防災メール登録及び防災行政無線放送確認電話番号のチラシを全戸配布。
平成29年11月	防災行政無線放送確認するためのフリーダイヤル（通話料無料）電話番号のチラシを全戸配布。
平成30年1月	防災行政無線の聞こえ方調査を実施